水田復活運動ピンチ

無許可残土 周辺へ流出

八王子堀之内 撤去見通し立たず

今年田植えどうなる

雑木林の山あいに小さな田んぼが並ぶ。昔懐かしい、こんな風景が残る八王子市堀之内の一角ではここ数年、いくつかのグループが荒れるに任せていた田んぼの復活運動に取り組んでいる。ところが、建設残土が無許可で運び込まれ、冬の間に周辺への流出が進んでいる。市は搬入の停止を命じたが、流出は止まらない。関係者は「今年の田植えは一体どうなるの」と心配を募らせている。

（望月 得生）

水田の復活運動が繰り広げられているのは、遊園地「多摩テック」のすぐ南側。日野市と八王子市の市境にあたる。

最寄り駅の京王堀之内駅まで、都心から約一時間。休日には遊園地の歓声が間近に聞こえる場所だ。

担い手の高齢化などで耕されることのなかった田んぼは、最近になって「里山」の大切さが注目されるようになって再び光を浴びた。水田の復活を自然保護や環境教育につなげようという市民グループが、ここを活動の場として大勢訪れるようになったからだ。

日本野鳥の会国際センター（日野市）や東京薬科大学（八王子市）などの有志でつくる「里山田んぼ生きものクラブ」もその一つ。地元の農家の指導を受けながら、昨年初めて、田植えから稲刈りまでをした。

「春に泥まみれで田起こしをし、秋に自分たちの手で刈り取る。環境教育には最高の場所です。奇跡的に残った田んぼを大切に使わせてもらいたい」と同センターの下重喜代参事は話す。

その「復活水田」に接した高台にある民有地を一昨年、建設業者が借りた。

関係者によると、当初は「ダンプカーの駐車場に使う」との説明だったが、間もなく残土が運びこまれた。昨年秋からはとうとう敷地を越え、棚田が広がる谷間に流れ込み始めた。

八王子市の条例は広さ五百平方㍍以上、高さ一㍍以上の土砂搬入に市の許可を必要と定めているが、業者は無許可だった。土砂は雑木を押し倒し、わき水が流れる小川にも泥が混じる。雪や雨の繰り返しで、流出はさらに進みかねない。

日本野鳥の会によると、周辺には絶滅が心配されているオオタカの生息も確認されている。

水が張られた田んぼには小さな水生生物がすむ。これを食べる小さな動物が次第に集まり、さらに小さな動物を捕らえようと猛きん類が飛んでくる。オオタカの存在は「一帯に多様な生物がいることの証明」（同会）だ。田んぼが埋まると、こうした動物が消えてしまう恐れも出てくる。

市の停止命令が出たことで土砂の搬入自体は止まった。だが、今度は逆に土砂が放置状態になった。市は「今後は原状回復を指導する」としているが、撤去の方法や時期の見通しは立っていない。

㊤流出した無許可残土（後方の高台）が雑木林を押し倒し、田んぼに迫る＝八王子市堀之内で
㊦大小さまざまな生き物にすみかを提供する役割も担う水田の復活運動／写真提供・里山田んぼ生きものクラブ＝昨年6月